



レファレンス電源経路を構成する延長性能

Masamitsu Fukuda's Power strip

Design & production, Text by

福田雅光

●この電源タップの狙い

本気で勝負しない人は、本当の友人を得ることはできない。そんな一文が記憶に残っている。「電源タップの競作」、本気です。テーマは「現用システムのレファレンス電源経路を構成する延長性能」。壁コンから電源タップで延長、その先に電源ケーブルとボックス、機器直結の電源ケーブルを接続。電源経路は最終的な経路の性能を効果的に発揮させる準備経路として大切な働きを持つ。

レファレンス電源経路を構成する延長性能

●音のポイントとアクセサリ対策
シンプルでデザイン的にスマートな構造で性能を追求

電源ケーブルはサエタのAC・6000(3・5スケア)が、高S/N・高解像度で作り易いことから注目していた。太ければ有利ということはない。デュアルコンセントは、フルテックのNCFロジウムメッキが最高と考えた。電源プラグはロジウムメッキではなく、最近注目しているARMOREDのメッキレス電極を採用。解像力、ダイナミックなコントラストは描写能力が高い。



作者による自己評価

手抜きしてシンプルに作ろうと思っていたが、完成してみると、これまでよりも魅力的なタップができ上がった。良質な部品と、ポイントを押さえた対策。S/Nは高く、解像力は満足。低音のエネルギーをもっと出したい。

これで役者は揃った。できるだけシンプルでデザイン的にスマートな構造で性能を追求。こだわりは、電流経路でのロスができるだけ少なく検討。副作用のない接点改質液(TMD)を、予めプラグとコンセントのワイヤー接続端子部に処理しておく。パーツは新品なので、ポリマー液のみを使い、

無添加洗浄剤のPANODで洗浄して仕上げる。なおコンセント側はYラグ処理をするため、ワイヤー取りつけ穴ではなく、外側のネジと電極の間に処理する。Yラグはフルテックのロジウムメッキ209・10(R)。圧着には工具がないと苦勞するが、ワイヤーは強力で圧縮密着される。裸線の状態はいくら強力で締めても、集合線は取縮して緩んでくる。後日締め直すこと安心だ。コンセント部は、実はYラグを使う結果、ケーブルが底部に接触する問題もある。ここではYラグを可能な限り斜めにして取めた。固定するネジはステンレス。強度が高く解像度重視にはこれだ。内部に手持ちの吸音綿を検討したが、試すと音はくもり止めた。電源にはこんなことも影響する。



アモルメットのリングコアノイズフィルターの装着にも工夫した。電源ケーブルをリングに通したあとに、適度な本数の結束バンドをさらに通して締めつける。このようにすれば、リングがケーブル上の任意の位置に固定される

0・6mm厚の薄い両面テープで長辺方向へ2本で固定。ケーブルクランプは差し込むとしっかり固定されるが、強固に固定する意味があるはずと、瞬間接着剤で固定。またケーブルには、アモルメットのリングコアノイズフィルターを使うことを計画。これは2線をリングに通さないと共通線の対策にはならない。ただ、装着する場所がなく、電源プラグのネットの部分に安定するように工夫して固定。最後の仕上げはコンセントプレート。コンセントの隣の部分に、1本のネジで固定するUL規格のものすごい影響力がある。